

日本科学未来館、有人月面探査車の実物大模型世界初公開

特別展「深宇宙展〜人類はどこへ向かうのか」開幕

日本科学未来館は7月12日〜9月28日、特別展「深宇宙展〜人類はどこへ向かうのか To the Moon and Beyond」を開催する。

同展は、JAXA、国立天文台、東京大学をはじめとする日本の主要な宇宙研究開発機関に加え、宇宙開発に携わる多くの企業・団体の協力により実現した、人類の新たな宇宙への挑戦を体感する大規模宇宙展である。有人月面探査「アルテミス計画」において実際に使用される日本製の有人月面探査車「有人与圧ローバー」の実物大模型が世界初公開となる他、日本の新たな大型基幹ロケット「H3ロケット」のフェアリング実物大模型や火星衛星探査計画「MMX」探査機の1/2模型の展示など、大迫力の展示とともに宇宙探査・開発の最前線や最新技術を紹介する。

また、日本の民間人で初めて国際宇宙ステーションに滞在した前澤友作さんが帰還時に搭乗したソユーズ宇宙船の実機の展示や、N

ASA等の探査機から送られてきたデータをもとに作成した映像を大画面で体感できる「火星ツアー」、「すばる望遠鏡」等の巨大観測機器が捉えた観測データから深宇宙の姿に迫る展示等を実施する。

開幕前日の7月11日には開会式があり、浅川智恵子館長や堀内義規文部科学省研究開発局長(当時)が挨拶した。また、宇宙開発エバンジェリストで同展監修者の戸梶歩氏からも挨拶があり、「本展を通じて、『宇宙を知る』だけではなく、『推したくなる』『自分事として感じることが出来る』ロケット、人工衛星、探査機、そして望遠鏡、それらによって観測された結果、その研究結果、そして未来へとつながる今後の宇宙開発や探査計画などとの『出会い』となることを期待しております」と想いを語った。その後、主催者や協力機関等の代表らによるテープカットが行われた。



テープカットをする(前列左4人目から)浅川館長、堀内研究開発局長(当時)、風木淳内閣府宇宙開発戦略推進事務局長、戸梶氏、同展天文分野監修者の平松正顕国立天文台天文情報センター副センター長ら



MMX探査機1/2模型



世界初公開となる「有人与圧ローバー」実物大模型